

献辞

加藤房雄先生は、本年（平成24年）3月に広島大学を退任された。広島大学経済学会は、加藤先生の長年にわたる広島大学へのご貢献に感謝し、退任記念号論文集を刊行することとした。

加藤先生は、昭和46年3月京都大学経済学部を卒業されたあと、同48年3月京都大学大学院経済学研究科修士課程を修了、同54年3月に同大学同研究科博士課程を単位修得退学され、同51年7月八代学院大学講師、同57年4月広島修道大学講師、同58年4月同大学助教授を歴任された後、平成3年4月広島大学経済学部助教授に着任された。同4年4月には広島大学経済学部教授に就任され、同16年4月には国立大学の法人化と共に広島大学大学院社会科学研究所教授に就任された。広島大学での在任期間は21年に及び、その間欧米経済史の講座を担当され、広島大学における欧米経済史研究の発展に専念されると共に、高い専門性と豊かな学識および懇切な指導力によって学生の教育・指導に当たられ、学界、教育界、および実業界に多くの有意な人材を送り出されると共に、広島大学経済学部主催の公開講座や高等学校などへの多数の出張講義を担当される一方で、大学基準協会大学評価委員（分科会評価委員）などを務め、大学と地域の連携の推進を図り、地域社会の発展と向上に寄与された。

大学行政においては、先生は経済学部および経済学専攻等の種々の委員長、広島大学評議員を歴任され広島大学の発展・充実に大きな貢献をされた。

ご研究においては、ドイツ経済史やヨーロッパ経済論の分野で多くの業績を上げ、特にドイツ農業経済史における「世襲財産（フィデイコミス）論」は、第一次資料を駆使した研究であり、日本の学術書のみならず、ドイツの学術書にもしばしば引用されており、内外で極めて高く評価されている。また、ドイツ社会経済史学会の会員としてドイツの学会で多くの口頭報告を行った実績があり、日独両学会での当該分野の研究発展に大きく貢献された。こうした先生のご努力は、「Wirtschaftlicher und sportlicher Wettbewerb」（Franz Steiner Verlag Stuttgart、共著）や「ドイツ都市近郊農村史研究―「都市史と農村史のあいだ」序説―」（勁草書房、単著）をはじめ多くの研究書・教科書および多数の研究論文の出版となって実を結んでいる。

国内の学界においては、土地制度史学会、政治経済学・経済史学会、社会経済史学会などに所属し、土地制度史学会理事、政治経済学・経済史学会理事、社会経済史学会理事、社会経済史学会中国四国部会代表理事を務め、学会の発展および学術研究の促進に貢献された。

先生はご退任後もますますお元気で、大学にもたびたび足をお運びになられ、ご研究に邁進しておられる。広島大学経済学会は、ここに本論文集を加藤房雄先生に捧げ、先生のご健康と今後における一層のご活躍を祈念する次第である。

広島大学経済学会長

宜名眞 勇